

## 20

## グランゼコール

★国家エリートの養成★

グランゼコールの誕生

フランスの高等教育には、中世以来の伝統をくむ大学 (univerte) と、18世紀以降の産業革命の興隆にあわせて設立されたグランゼコール (Grandes écoles) と呼ばれる二系統の高等教育機関が並立しており、この二元性が特色となっている。そもそも大学は聖職者養成と神学研究を起源とする理論的教育から出発したため、実践的教育に関心が乏しく、そのために18世紀以降に土木学校 (Ecole des ponts et chaussées, 1715年創立) を始めとして、鉱山学校 (Ecole des mines, 1783年創立)、理工科学学校 (Ecole polytechnique, 1794年創立) などの技術者養成の専門教育機関が創設された。

大学とグランゼコール

大学とグランゼコールの大きな違いは、大学はバカロレア取得者に開放され、個別試験を実施しないのに対して、グランゼコールはバカロレア取得後1年から2年の準備学級を経て、個別入試を行う点にある。受験は2回まで可能である。また少数のカトリック系私立大学をのぞいて、大学は原則として国立で

あり、グランゼコールには国民教育省に属するものもあれば、他省庁に属するもの (たとえば理工科学校は国防省の管轄) など国立もあれば、ビジネススクールのように主に商工会議所が運営するものなど、さまざまな設置形態をとっている。さらに登録料をのぞいて大学の学費が原則として無料であるのに対して、グランゼコールには高額な学費を求める学校もあれば、これとは逆に、準公務員として給与を支給されるところもある。

教育分野についてみると、大学は理論教育を重視するのに対し、グランゼコールは応用実践教育 (理工学、経営学、商学、行政学など) に重点化し、そのため教授陣も大学教授だけでなく、実業家や官僚などの実務家を講師として招き、官庁や企業研修も盛んである。

グランゼコールの多様性

グランゼコールの代表格には最難関といわれる理工科学校があり、この学校は「科学および一般教養を実施し、専門教育の後に、国家の文官あるいは武官職、他の公職さらには国家全体の活動にかかわる職において高度の資格を必要とし、科学技術あるいは経済の専門分野で責任あるポストに就く」ことを目的としている。卒業生は軍だけでなく、政官民の各界に活躍している。また鉱山学校や土木学校も理工系高級官僚養成の一翼を担っている。政府関係者や官僚の半数、大企業100社の経営者の3分の2がいずれかのグランゼコールの出身である。ちなみに、日産自動車の社長兼CEOのカルロス・ゴーンは理工科学校と鉱山学校の二つのグランゼコールを修了している。

理系にくらべると、文系のグランゼコールの数は少ないが、なかでもパストゥールなどを生み出

した高等師範学校 (Ecole normale supérieure, 1794年創立) は中・高等教育の教員養成を行い、フランスの思想界の牽引役となっている。国内に30あまりを数えるビジネススクールの中でも高等商業学校 (Ecole des hautes études commerciales, 1881年創立) はハーバード・ビジネススクールに比肩する難関校で、経営管理やマネジメントなどの高等専門教育を実施しており、「経営を学ぶ学校ではなく、経営エリートを育てる学校」であることを自負している。また、国立行政学院 (Ecole Nationale d'Administration, 1945年創立) は首相府に属する大学院大学で、国務院、会計検査院、財務監察院や外交官、知事、高級行政官や政令 (デクレ) の定める公職に就く公務員を養成し、政財界への登竜門ともなっている。

グランゼコールは第三者機関により評価され、初任給の段階から一般大卒との間に格差があるのもちろんのこと、グランゼコール間にも給与格差が歴然としている。

また、グランゼコール入学者の多くが上層階級出身であることから、教育が社会的上昇を可能とするのではなく、社会階層の再生産を行い、固定化につながるという批判もあり、企業や行政の管理職を準備するパリ政治学院 (Institut d'études politiques de Paris, 1872年創立) などでは問題都市地域 (zones urbaines sensibles : zus) 出身の生徒に一定数の入学枠を設ける試みなどを行っている。

#### コレージュ・ド・フランス

グランゼコールの創設に先立ち、フランソワ1世が1530年に設立したコレージュ・ド・フランス (College de France) もフランスの高等教育の中で特別な地位を占めている。この研究教育機関はヘブライ語、ギリシャ語や数学の講座から出発したが、現在では52名の教授がそれぞれの研究テーマに従

い、最新の研究成果を公開している。聴講は自由で、試験もなければ、いつさいの免状もない。知の最先端が、無料の公開講座として市民に開放されており、これまでに、歴史家のミシュレ、哲学者のベルクソン、詩人思想家のヴァレリー、文化人類学者のレヴィ・ストロース、思想家のフーコーなどフランスの知性を代表する知識人が講壇に登った。

(西山教行)